

この3年間で大阪府の公立高等学校の入試制度が大きく変わっています。たとえば、入試での調査書評定は、1年生時、2年生時、3年生時の成績が1：1：3の割合で入ります。また、出願の時には自己申告書を提出しなければなりません。

※現在の2年生（4月から3年生）の受験年度は平成31年度（2019年度）です。

1. 特別入学者選抜と一般入学者選抜

特別入学者選抜（一部の選抜・学科）を除き、ほとんどの学科は一般入学者選抜として一斉に実施されます。

(1) 特別入学者選抜（2月）

① 実施学科等（入試に実技検査または面接検査を実施する学科）

全日制の工芸高校の全学科、デザインシステム科、総合造形科、音楽科、体育に関する学科、芸能文化科、演劇科、エンパワメントスクール、多部制単位制Ⅰ部・Ⅱ部（桃谷高校）、昼夜間単位制（中央高校）、海外帰国生徒選抜、中国帰国、外国人生徒選抜、知的障がい生徒自立支援コース、高等支援学校職業科、共生推進教室

② 日程（平成31年度）：出願2月13, 14日、学力検査2月19日、実技検査・面接2月20日（音楽科は出願2月5, 6日、実技検査2月17日、学力検査・聴音2月19日）、合格発表2月27日

(2) 一般入学者選抜（3月）

① 実施学科等：全日制の普通科（単位制、総合選択制を含む）、総合学科、その他の専門学科、クリエイティブスクール（桃谷高校を除く）、多部制単位制Ⅲ部、定時制（中央高校を除く）、通信制

② 日程（平成31年度）：出願3月1, 4, 5日、学力検査3月11日、合格発表3月19日

※ 特別選抜と一般選抜の両方で募集する学科はありません。特別選抜に出願し、不合格の場合は一般選抜に出願できます。

③ 追学力検査（一般入試だけ）

今年から、一般入試に限り、学力検査の当日にインフルエンザなど出席停止の扱いが定められている感染症に罹患した志願者は、追学力検査を受けられることになりました。学力検査当日に感染症に罹患していたことを証明する書類（医師の証明書）が必要です。



2. 第1志望と第2志望

以前は同一校に複数の専門学科がある場合のみ第2志望をすることができましたが、普通科も含めて同一校に複数の学科がある場合に第2志望をすることができるようになっています。

志望学科に関わらず総合点の高い者から順に並べて志望順位に従って上位から合格させます。つまり、第1志望の学科で不合格だった者が第2志望の学科で合格し、その学科で総合点の低い第1志望の者が不合格になることもあるということです。（私学の回し合格と同じ）

3. 学力検査

(1) 教科数：特別選抜・一般選抜とも一部を除き全学科5教科で同じ配点です。

特別選抜の帰国生徒選抜、中国帰国生徒外国人生徒選抜は数学と英語の2教科、一般選抜の多部制単位制のⅢ部、定時制(中央高校を除く)は3教科です。

(2) 問題の種類：特別選抜がA(基礎的問題)・B(標準的問題)の2種類、一般選抜が

A(基礎的問題)、B(標準的問題)、C(発展的問題)の3種類作成されます。

高等学校が選択し、あらかじめ発表されます。一般選抜の多部制Ⅲ部と定時制の問題は別途作成されます。

(3) 英語：英語のC(発展的問題)の問題文は指示文も含め全て英語で出題されます。

英文の量は、指示文や選択肢も含め、これまでの3倍近くとなり、かなりのスピードで読めなければなりません。英作文は単に日本語を英語に直すのではなく、設問に対し自分の考えを英語で書く問題となっています。

リスニングテストも指示も含め全て英語となります。

「読む」「書く」「聞く」の3領域の配点も変わり、「聞く(リスニングテスト)」を33% (以前は20%) に、「書く(英作文)」を20% (以前は8%) に引き上げられています。

(4) 英語の外部試験の導入：「TOEFL iBT」「IELTS」「英検」の外部テストの結果を入試に

反映させます。それぞれの外部試験の結果を入試得点に読み替え、学力検査の英語の得点と比べ、高い方を英語の得点とされます。

(参考：換算表)

外部試験	TOEFL iBT	IELTS	英検	学力検査への読み替え率
得点 または 級	60～120点	6.0～9.0	準1級・1級	100%
	50～59点	5.5	—	90%
	40～49点	5.0	2級	80%

4. 評定

(1) 絶対評価：入試に使う調査書の評定は、5点満点の「目標に準拠した評価(絶対評価)」になっています。それぞれの評定がつく人数の割合は定められません。

(2) 倍率：以前は学力検査のある教科とない教科とでは掛ける倍率が異なりましたが、現在ではすべての教科が同じ倍率になっています。

(3) 3ヶ年の評定を記載：調査書には、3ヶ年すべての評定を記載します。判定の資料となる割合は3年:2年:1年=3:1:1となります。

(4) チャレンジテスト：

※1年次、2年次の1月に実施されるチャレンジテストは中学校で付ける評定の検証に使われます。毎年のチャレンジテストは統計の手法によって処理され、各評定のチャレンジテストの得点の範囲が定められます。その範囲から外れた評定のみ範囲内に収まるよう修正されます。その範囲はかなり広く、統計上約95%がその範囲に入ることになります。

★チャレンジテストの得点と評定の範囲：平成29年度1年生)

教科	評定5	評定4	評定3	評定2	評定1
国語	100～58	90～44	79～24	60～8	51～5
数学	100～67	98～46	80～18	52～1	33～0
英語	100～80	100～62	93～36	73～15	65～0

★チャレンジテストの得点と評定の範囲：平成 29 年度 2 年生)

教科	評定 5	評定 4	評定 3	評定 2	評定 1
国語	100～72	100～61	94～40	80～16	68～0
社会	100～52	86～32	68～13	46～5	38～0
数学	100～69	98～49	83～20	55～1	37～0
理科	100～69	96～52	85～28	65～10	48～0
英語	100～68	98～46	80～24	58～11	47～0

※3 年次の 6 月に実施されるチャレンジテストは 3 年生の各中学校の評定の平均点の範囲を決めるために利用されます。

- (5) 大阪市統一テスト：3 年次の 10 月に 5 教科（国語・数学・社会・理科・英語）で実施し、評定に反映されます。各教科ごとに全市の得点分布に応じて以下のように評点を与えられます。（平成 29 年度 [現 3 年生] の場合）

全体得点分布中	上位 8 %以内	上位 21 %以内	上位 41 %以内
評 定	5	4 以上	3 以上

5. 自己申告書

公立高校の入試のすべての学科で必要となっています。エンパワメントスクールを除き、調査書の「活動/行動の記録」(総合所見)とともにボーダーゾーン内での判定の資料となります。

6. 学力検査と評定の割合

全日制のすべての学科で学力検査と評定の得点比率を、7：3, 6：4, 5：5, 4：6, 3：7 の中から高校が選択することになっています。

7. ボーダーゾーン

エンパワメントスクール以外のすべての学科で、ボーダーゾーンの幅は 90%～110 %となります。

各高校の「アドミッションポリシー」(求める生徒像)に合致した者から合格させます。合致した者で合格者数が募集定員に満たない場合は、次に総合点(学力検査の点と評定を合わせた点)の高い者から合格させます。

8. エンパワメントスクール(平成 27 年度より開設)

(1) 内容：学科は「総合学科」です。学習状況に「つまずき」がみられる生徒を対象に、少人数授業でプリント等を使った個々に合わせた授業でつまずいたところから学び直し、学力を充実させます。社会性を身につけさせ、社会で生き抜く力を養います。

(2) 選抜方法：学ぶ意欲が重視されます。

第 1 手段として、学力検査の中で国・数・英の得点が一定の基準(今年は 45 点満点で国語 10 点、数学 10 点、英語 10 点でした)に達した生徒に対し、面接、自己

申告書、調査書の「活動/行動の記録(総合所見)」を資料として合格者を決定します。その割合は2:1:1となります。評価基準は学ぼうとする意欲と、自分の将来への展望です。この手順で募集人数の最大50%まで合格させます。

第2手順として、学力検査と評定の総合点により募集人数に達するまで合格させます。ボーダーゾーンは設定されません。

(3) 平成30年度入試(現3年生が受験)から、北淀高校と西淀川高校(平成29年度に募集停止)を統合した淀川清流高校がエンパワメントスクールとなりました。

(学校の場所はこれまでの北淀高校)

9. 工科高等学校(大学進学専科など)

府立工科高等学校9校が、それぞれの特長を生かし、異なった3つの「人材育成の重点化」が図られています。

(1) 高大連携重点型(府立茨木工科、今宮工科、淀川工科高等学校)

工学系大学進学を目指し、技術と理論を兼ね備えた「将来の高度技術者」の育成に重点を置きます。

- ① 「大学進学専科」を設置し、1年次より別枠で40名を単独募集します。
- ② 大学入試に向け、数学Ⅲ、物理、英語等のカリキュラムを充実します。
- ③ 特色ある教科・科目を設定し、先端分野の学習に係る大学等との学外連携を図ります。
- ④ 大学進学に向け、指定校推薦枠の増加に努めます。

(2) 実践的技能育成重点型(府立西野田工科、藤井寺工科、堺工科高等学校)

※ 高度な職業資格取得を目指し、「高い付加価値を生み出す技術・技能を持つ人材」の育成に重点を置きます。

- ① 技術・技能レベルを向上させ、資格取得を促進します。
- ② 企業より技術者を招聘し、精密加工等の高度技術指導を実施し、学んだ技術・技能を活用できる能力を高めます。

(3) 地域産業連携重点型(府立城東工科、布施工科、佐野工科高等学校)

※ 実習や授業における企業連携を進め、「ものづくり現場を支えて指導・管理・改善を推進する現場リーダーとなる人材」の育成に重点を置きます。

- ① 長期企業実習やインターンシップを取り入れるとともに、地域産業と連携して商品開発を行うなど、経験を重視します。
- ② 少人数グループで課題に取り組ませ、一人一人に発表・発言させ、リーダーシップ、チームワーク、コミュニケーション力の育成を図ります。



10. 普通科総合選択制の改編

「普通科総合選択制」は段階的に「総合学科」か「普通科」(普通科の専門コース制)のどちらかに改編されます。平成29年度からは東淀川高校が普通科になっていきます。

※詳細については後日発表されます。またここに書かれた内容も変更になるかもしれません。大阪市立の高等学校もこの改編に含まれます。

平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜実施校

特別入学者選抜実施校

(1) 全日制の課程（総合学科（エンパワメントスクール）を除く。）

学 科 名 等	高 等 学 校 名		
	府 立	市 立	
工業に関する学科	建築デザイン インテリア デザイン科 プロダクト デザイン科 映像デザイン ビジュアル デザイン科	_____	市立工芸
	デザインシス	_____	岸和田市立産業
美 術 科	_____	市立工芸	
体育に関する学科	摂津、大塚	市立桜宮、市立汎愛	
芸能文化科	東住吉	_____	
演劇科	_____	市立咲くやこの花	
音楽科	夕陽丘	_____	
総合造形科	港南造形	_____	

(注) 「市立」欄で、岸和田市立の高等学校以外は大阪市立の高等学校である。

(2) 全日制の課程総合学科（エンパワメントスクール）

学 科 名	高 等 学 校 名	
	府 立	市 立
総合学科	淀川清流（仮称）、成城、西成、長吉、箕面東、布施北、和泉総合、岬	_____

(3) 多部制単位制Ⅰ部・Ⅱ部（クリエイティブスクール）及び昼夜間単位制

課程等・学科名	高 等 学 校 名	
	府 立	市 立
多部制単位制Ⅰ部・Ⅱ部 普通科	桃谷	_____
昼夜間単位制 普通科 ビジネス科	_____	市立中央

(注) 「市立」欄は、大阪市立の高等学校である。

一般入学者選抜実施校

(1) 全日制の課程（総合学科（クリエイティブスクール）を除く）

_____ は普通科総合選択制の高等学校を示す。

学 科 名 等	高 等 学 校 名	
	府 立	市 立

普通科 (総合選択制を含む。)	東淀川、旭、茨田、清水谷、夕陽丘、港、勝山、阿倍野、東住吉、平野、阪南、池田、渋谷、桜塚、豊島、刀根山、箕面、春日丘、茨木西、北摂つばさ、吹田、吹田東、北千里、山田、三島、高槻北、芥川、阿武野、大冠、摂津、島本、寝屋川、西寝屋川、北かわち臥が丘、枚方、長尾、牧野、香里丘、枚方津田、枚方なぎさ、守口東、門真西、野崎、緑風冠、交野、布施、花園、かわち野、みどり清朋、山本、八尾、八尾翠翔、大塚、柏原東、河南、富田林、金剛、懐風館、長野、長野北、藤井寺、狭山、登美丘、泉陽、金岡、東百舌鳥、堺西、福泉、堺上、美原、泉大津、信太、高石、和泉、久米田、佐野、日根野、貝塚南、りんくう翔南、泉鳥取	市立東、市立桜宮、市立汎愛、大阪市立、東大阪市立日新
普通科 (単位制高等学校)	市岡、大阪府教育センター附属、楳の木、鳳	_____
学商業に 関する マネジメント創造	商業科	市立淀商業、市立住吉商業、市立鶴見商業、東大阪市立日新、岸和田市立産業
	流通経済科	市立西
	マネジメント創造	堺市立堺
グローバルビジネス科	_____	市立大阪ビジネスフロンティア
農業に関する学科	園芸、農芸	_____
工業に関する学科 (特別選抜実施学科を除く。)	淀川工科、西野田工科、今宮工科、茨木工科、城東工科、布施工科、藤井寺工科、堺工科、佐野工科	市立都島工業、市立生野工業、市立泉尾工業、市立東淀工業、堺市立堺
情報科学科	_____	市立西
英語科	_____	市立東、大阪市立、市立西、市立南、東大阪市立日新
国際教養科	旭、枚方、花園、長野、佐野	_____
国際文化科	住吉、千里、泉北	_____
グローバル科	箕面、和泉	_____
国語科	_____	市立南
理数科	_____	市立東、大阪市立
総合科学科	住吉、千里、泉北	_____
サイエンス創造科	_____	堺市立堺
文理学科	北野、大手前、高津、天王寺、豊中、茨木、四條畷、生野、三国丘、岸和田	_____
福祉ボランティア科	_____	市立淀商業
食物文化科	_____	市立咲くやこの花
総合学科	柴島、大正白稜(仮称)、今宮、千里青雲、福井、芦間、門真なみはや、枚岡樟風、八尾北、松原、堺東、成美、伯太、貝塚	市立扇町総合、市立咲くやこの花

(注) 「市立」欄で、堺市立、東大阪市立及び岸和田市立の高等学校以外は大阪市立の高等学校である。

(2) 全日制の課程総合学科（クリエイティブスクール）

学 科 名	高 等 学 校 名
	府 立
総 合 学 科	東住吉総合

(3) 多部制単位制Ⅲ部（クリエイティブスクール）及び定時制の課程

*は、多部制

単位制Ⅲ部

学 科 名 等	高 等 学 校 名	
	府 立	市 立
普 通 科	大手前、桜塚、春日丘、寝屋川、布施、三国丘	市立都島第二工業
する 商業 学科 に關 する 学科	商 業 科	岸和田市立産業
	マネジメント創造科	堺市立堺
工業に関する学科	_____	市立都島第二工業、市立第二工芸、 堺市立堺
総 合 学 科	西野田工科、今宮工科、茨木工科、 藤井寺工科、堺工科、佐野工科、成城、 和泉総合	_____
*普 通 科 (クリエイティブスクール)	桃谷	_____

(注)「市立」欄で、堺市立及び岸和田市立の高等学校以外は大阪市立の高等学校である。

(4) 通信制の課程

学 科 名	高 等 学 校 名	
	府 立	
普 通 科	桃谷	

進路にかかる日程の概要

※日程は予定です。変更されることがあります。(下線は確定)

年 月 日	進 路 に か か わ る 予 定	行 事 等
<u>H30年(2018年)</u>		
<u>1月11日</u>	<u>1・2年 チャレンジテスト</u>	
2月28日－3月2日	1・2年 学年末テスト	3月24日－4月8日春休み
<u>5月17－18日</u>	<u>1学期中間テスト</u>	6月1日 体育大会
<u>6月15日</u>	<u>第1回実力テスト</u>	6月8－10日 修学旅行
6月25－27日	1学期期末テスト	6月 第1回進路説明会
<u>6月20日</u>	<u>3年 チャレンジテスト</u>	
7月12－18日	保護者懇談会	7月21日－8月26日
9月4日	第2回実力テスト	夏休み
9月27－28日	2学期中間テスト	
<u>10月4日</u>	<u>大阪市統一テスト</u>	10月12日 文化発表会
<u>10月19日</u>	<u>第3回実力テスト</u>	10月17日
		3年第2回進路説明会

11月5—9日	3年進路懇談	
11月12日	第4回実力テスト	12月26日—1月6日
11月20—22日	2学期期末テスト	
12月13—19日	3年進路懇談…私学、公立特別入試受験校	冬休み
H31年(2019年)		
1月9日	第5回実力テスト	1月7—9日
1月22—24日	3年学年末テスト	私学進路相談
2月9—10日	私学入試	
2月12—15日	3年進路懇談…公立一般入試受験校	
2月19—20日	公立特別入試(2月27日合格発表)	
3月11日	公立一般入試(3月19日合格発表)	3月中旬 卒業式

アドミッションポリシー（求める生徒像）の例

[テーマ] あなたは、中学校などの生活（あるいはこれまでの人生）でどんな経験をし、何を学びましたか。また、それを高等学校でどのように生かしたいと思いますか。できるだけ具体的に記述してください。

淀川清流高校 (特別選抜入試・エンパワーメントスクール)

本校は、きめ細かい指導で生徒に寄り添い、生徒の自主性を大切にするとともに、思いやりの心や人権尊重の精神等、豊かな人間性を育む教育を実践します。また、ユネスコスクールとしての活動や2年次からの各系列の専門科目等で、生徒の自己実現を支援します。本校の特色を理解し、本校志望の意志が強く、自分の可能性を伸ばそうと努力する生徒を求めます。

- 1) 基礎的な学習から学び直したい生徒
- 2) 中学校で部活動や生徒会活動等に熱心に取り組んだ生徒や、これから積極的に取り組みたい生徒
- 3) 国際交流やボランティア活動に取り組み、夢に向かってチャレンジしたい生徒
- 4) 他人に対して思いやりの心を持って接することができる生徒
- 5) 時間やきまりを守り、けじめをつけて高校生活をおりたい生徒

柴島高校 (一般選抜入試・総合学科)

本校は、一人ひとりを大切にする教育を創立以来の伝統とする学校です。社会で主体的に生きていくための学力を育てる「コアカリキュラム授業群（2020年からの大学入試改革にも対応）」、自分だけの時間割を作成するなかで自己決定力（自分のことは自分で決める力）を育てる「総合学科システム」、そして一人ひとりが自分らしさを持って生きていくことを可能にする「多様性尊重の取組（キーワードはリスペクト）」が本校の特色であり、常に変化する今日の社会のなかで「他者と協働しながら『未来を変える力』」を育むことを目標にしています。

- 1) 自らの個性を発信することのできる生徒
- 2) 互いの違いを尊重することのできる生徒
- 3) ともに学びともに生きる集団作りに貢献したい、という強い意志を持った生徒
(本校は、知的障がい生徒自立支援コースを設置しています。)